

本事例の基礎データ

カテゴリ	文字入力（タイピング）に関する指導方法		
学校種	中等教育学校 前期課程（中）	事例提供者	東京都立三鷹中等教育学校
学年	1年生	教科等	総合的な学習の時間
単元名	情報活用能力の育成		
主な ICT 機器	CALL 教室（デスクトップ PC） GIGA スクール端末（キーボード付き Surface Go2/一人1台）		
授業の概要	本校におけるパーソナルコンピュータの使用ルールの説明および、キーボードの使い方、情報セキュリティの基本を確認する。		
「情報活用能力 #東京モデル」 の位置付け	基本的 操作	STEP4	・文字入力ができる（40文字程度/1分間）

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<p>日常的にパーソナルコンピュータを活用</p> <p>パーソナルコンピュータは、学校生活だけでなく社会生活を行う上で必要不可欠な道具である。特にタイピングについては、正しい入力方法が重要なため、改めて基本を確認する。</p>
【ポイント2】	<p>一人1台端末の活用</p> <p>コンピュータ教室での指導を、一人1台端末の活用にも応用する。コンピュータのメーカーや形態が異なっても、キーボードの配列は同じであることを認識させる。</p>
【ポイント3】	<p>情報セキュリティに対する意識を高める</p> <p>コンピュータやインターネットを使用する上で必要な情報セキュリティの考え方、対応方法を身に付けさせる。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

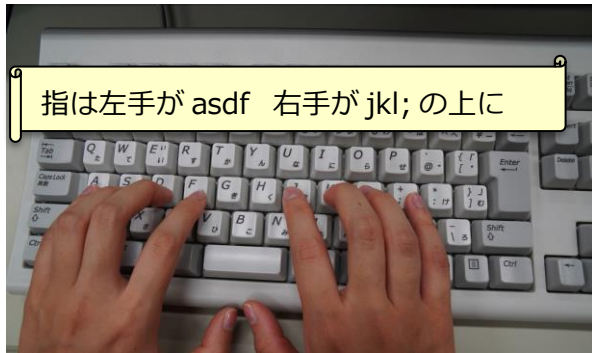
時間	●主な学習活動 ・生徒の活動	○支援・留意点 ☆評価
1 ～ 3	<ul style="list-style-type: none"> ●【人生設計学】 ・自ら学ぶ意欲をもつ。 ・課題解決能力の育成 ・自らの考えをまとめ表現できる力 ・自己を豊かにする力 ・社会的リーダーとなる自己成長 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間で学ぶことについて知る。 ○資料の集め方、図書館の利用法、学級や委員会など学校生活に自分がどのように関わっていくか自分の生かし方を考えさせる。 ☆自己を見つめ、ワークシートにまとめる。
4 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ●【情報活用能力の育成】 ・コンピュータ教室の使い方 ・情報セキュリティの考え方 ・ID、パスワードの取扱い方法 ・キーボードの基本的な操作方法 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との違いを意識させ、コンピュータは道具であること、正しく使用するルールを確認する。 ○情報セキュリティについては、学校生活を行う上での基本となるルールであることを周知する。 ☆タイピングについて、測定を行う。
8 ～ 10	<ul style="list-style-type: none"> ●【校外学習にむけて】 ・第一次産業についての理解 ・漁業、酪農、棚田観察などの体験学習 ・集団の中での自分について ・校外学習のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○第一次産業だけにとどまらず、産業全体について考えさせる。 ○グループの中での自分の役割を明確にし、一つ一つの行動に責任をもたせる。 ☆仲間との協調性や、活動のまとめを作成させる。
14 ～ 17	<ul style="list-style-type: none"> ●【職業教育】 ・職場見学について知る。 ・働くことの意義や職業について知る。 ・身近な地域の産業について調べる。 ・興味のある職業について調べ、自分の将来を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年次に行う職場体験とのつながりを意識させる。 ○職業を通じて、自己を知ることができるように客観的な分析を用いる。 ☆自分の将来について現在の考えをまとめさせる。

本時の流れ

段階	●主な学習活動・児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータ教室の使い方 ・コンピュータ教室のルールを覚える。 ・共用端末であることから、使う前よりきれいな状態で片付けをすることを知らる。 ・正しい部屋の状態を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンピュータ教室は、生徒の活動時間中は常時解放されていて、自由に使えることを確認する。 ○決められたルールの中に自由があることを認識し、正しく利用する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●情報セキュリティの考え方 ・本校におけるセキュリティポリシーを理解する。 ●ID、パスワードの取扱いについて ・ID（Identification）の重要性を理解する。 ・パスワードの強度について知る。 ●キーボードの基本的な操作 ・キーボードも箸や鉛筆のように正しい指の使い方があることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ID は、他人と共用してはいけないこと、自分専用であることを理解させる。 ○パスワードを他人に教えないことを理解させる。 ○パスワードを決定するためのルールは具体例を示し、適切なパスワードを設定させる。 ○ホームポジションを常に意識させ、長期的な視点でタイピングができるように指導する。 ☆タイピングスキルについては、技術・家庭科の時間に定着の状況を確認する。
道具（パーソナルコンピュータ）は正しい使い方でおおう。		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●今後のコンピュータの使い方について ・コンピュータ教室だけでなく、一人1台端末でも、自宅のコンピュータでも考え方は同じであることを知る。 ●正しい使い方を続けることの有用性 ・Society5.0 時代にコンピュータは必要不可欠な存在であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての教科・活動でコンピュータを活用する可能性があることを理解させる。 ☆情報活用能力が身に付いているか、学校生活全般での活用状況を見て、総合的に判断する。

授業の実際

【ポイント1】 ●ホームポジションを意識した日常の活用



ホームポジションを守ろうとせず、数本の指でタイピングをする癖が付いている生徒がいる。正しい姿勢で、正しい指使いをすることが将来的に効果的であることを理解させ、指使いを身に付けさせる。

【ポイント2】 ●一人1台端末の活用



一人1台端末は、特定の場所に保管せず生徒が毎日持ち帰るルールにしているため、コンピュータは常に生徒の手元にある。学校生活のあらゆる場面で活用するため、タイピングだけではなく、情報活用能力の育成の視点から常に生徒に指導している。

【ポイント3】 ●コンピュータ教室の常時開放



常時解放することで、授業での指導にとどまらず、放課後などにもコンピュータを使用する場面は学校生活の至るところにあるため、継続した指導が行うことができる。

今後に向けて

- タイピングは、社会に出てコンピュータを使用する上で必須スキルであるため、タイピングが苦手なまま放置してしまうと、コンピュータに慣れ親しむことができず、情報活用能力が身に付かない恐れがある。義務教育段階で、確実に正しいタイピングを身に付けさせたい。
- 文字を打つときにキーボードを見ることは一時的に作業（思考）を中断することになる。コンピュータを長時間使用する場合の疲労も、手元を見ないことで、視線の移動が少なくなり、効率的にコンピュータを使用できることを実感させていく。